

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-07 情報社会と コンピュー ティング	20130586012501	●情報社会と コンピュー ティングI (情 報の活用)	和	E	丹羽 量 久	1年,2年,3年,4年	後期	火 1	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-07 情報社会と コンピュー ティング	20130586012901	●情報社会と コンピュー ティングI (情 報社会の安全 と安心)	和	E	上繁 義 史	1年,2年,3年,4年	後期	火 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-07 情報社会と コンピュー ティング	20130586013301	●情報社会と コンピュー ティングI (計 算機の科学)	和	E	野崎 剛 一	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-07 情報社会と コンピュー ティング	20130586013302	●情報社会と コンピュー ティングI (計 算機の科学)	和	E	野崎 剛 一	1年,2年,3年,4年	後期	月 1	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-07 情報社会とコンピューティング**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586012501	科目番号	05860125
授業科目名	●情報社会とコンピューティングⅠ(情報の活用)		
編集担当教員	丹羽 量久		
授業担当教員名(科目責任者)	丹羽 量久		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丹羽 量久, 藤井 美知子		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[情]第2端末室		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	k-niwa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	情報メディア基盤センター 2階		
担当教員TEL	095-819-2084		
担当教員オフィスアワー	火曜日 13:00~14:30		
授業のねらい	報告書の作成にあたって、文書構造を意識した文章の組み立て方法を理解し、推敲結果の反映、その体裁を整えと いった一連の文書作成作業を容易かつ効率的に行うために必要な文書作成ソフトの活用方法を習得させる。また、 数値データを目的に応じて適切な方法で分析し、その結果をわかりやすく表現できるように、表計算ソフトに備わっている種々の関数機能、グラフ作成機能を習得させる。		
授業方法(学習指導法)	文書作成技法および表計算技法についての講義に加え、複数のアプリケーションソフトウェアを使った演習を随時行う。授業時間外の課題への取り組みと合わせて、各技法を確実に修得できるようにする。演習・課題については理解状況に応じてフィードバックを行い、学習成果を振り返る機会を設ける。少人数グループ内で協同作業を行う課題では、教え合いにより質問者・回答者ともに理解を深めさせる。		
授業到達目標	デジタル文書作成技法を理解し、整った報告書(レポート)を効率的に作成できる。(①, ②, ③, ⑤, ⑦, ⑫) 表計算技法を理解し、数値データのデータ分析に応用し、その結果をグラフ等で表現できる。(①, ②, ③, ⑤, ⑦, ⑫)		
	授業内容は以下のことを予定しているが、理解状況等に合わせて回数・順序・方法を調整しながら進める。		
	回	内容	
	1	【ガイダンス】 この授業の概要、目的、目標、内容、進め方、評価方法について説明を行う。 三つのモジュールⅠ科目で利用する電子書籍Readerを配布する。科目「情報基礎」の復習課題への取り組みについて指示する。	
	2	【文書作成技法(1/4)】以下の内容を4回に分けて取り上げる。 明瞭な表現、文書データの構造化、Microsoft Wordの機能(アウトライン、スタイル、目次の自動生成、校閲機能、検索・置換)、およびフィードバック	
	3	【文書作成技法(2/4)】	
	4	【文書作成技法(3/4)】	

授業内容	5	【文書作成技法(4/4)】	
	6	【分析のための可視化(1/4)】以下の内容を4回に分けて取り上げる。 情報の変換, グラフを用いた分析, グラフ作成の原則, Microsoft Excelグラフの描画 (円グラフ, 組み合わせグラフ, 散布図, レーダーチャート, グラフテンプレートの利用等), およびフィードバック	
	7	【分析のための可視化(2/4)】	
	8	【分析のための可視化(3/4)】	
	9	【分析のための可視化(4/4)】	
	10	【表計算技法(1/5)】以下の内容を4回に分けて取り上げる。 「情報基礎」の復習問題の解説, Microsoft Excelに備わっている関数 (統計, データベース等), クロス集計, およびフィードバック	
	11	【表計算技法(2/5)】	
	12	【表計算技法(3/5)】	
	13	【表計算技法(4/5)】	
	14	【表計算技法(5/5)】	
	15	総括	
	16		
	キーワード	デジタル文書作成技法, 表計算技法	
	教科書・教材・参考書	<p>【教科書・教材】 eラーニングシステム上で教材を提供する他, 必要に応じて別途指示する。</p> <p>【参考書】</p> <p>[1] 高杉尚孝, 『論理表現力』, 日本経済新聞社, 2010年6月。 [2] テクニカルコミュニケーター協会: 『日本語スタイルガイド 第2版』, テクニカルコミュニケーター協会, 2011年4月。 [3] 古郡延治, 『論文・レポートの文章作成技法 論理の文章術』, 日本エディタースクール出版部, 2006年3月。 [4] 富士通エフ・オーエム株式会社: 『Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2010 対策テキスト&問題集』, FOM出版, 2011年4月。 [5] 富士通エフ・オーエム株式会社: 『Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2010 対策テキスト&問題集』, FOM出版, 2011年4月。</p>	
	成績評価の方法・基準等	授業中の演習課題および授業時間外に課すレポートの提出状況とその内容で評価する。	
	受講要件 (履修条件)	全回出席を原則とする。授業中だけでなく, 授業時間外においても, 課題および予習・復習等に取り組むこと。	
本科目の位置づけ	前期開講の情報科学科目「情報基礎」の関連科目である。		
学習・教育目標			
備考 (URL)			
備考 (準備学習等)			



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-07 情報社会とコンピューティング**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586012901	科目番号	05860129
授業科目名	●情報社会とコンピューティングⅠ(情報社会の安全と安心)		
編集担当教員	上繁 義史		
授業担当教員名(科目責任者)	上繁 義史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	上繁 義史		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス	yueshige@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	情報メディア基盤センター2階		
担当教員TEL	095-819-2254		
担当教員オフィスアワー	火5、木5		
授業のねらい	情報社会において、安全性を確保していくためには、情報セキュリティを維持していくことが欠かせない。本授業では、情報セキュリティについて基本的な考え方や社会問題について取り上げ、総合的に理解を深める。		
授業方法(学習指導法)	本授業は、第1回～第10回を座学中心の「知識編」、第11回～第15回をグループ学習中心の「活用編」とする。資料を毎回配布する。各回の授業内容を確実に理解していくために、グループ単位でのディスカッションやワークシート作成などを行っていく予定である。 eラーニングシステムを授業資料や演習課題の提示、課題回収、各種連絡等に活用する。		
授業到達目標	情報セキュリティの取り組み方について概要を説明できることを到達目標とする。この目標に到達するために、以下のサブ目標を挙げる。 ・情報セキュリティやセキュリティリスクなどの基本的な考え方を説明できる。(①、②、⑦、⑪) ・個人情報やプライバシーなどの基本的な考え方を説明できる。(①、②、⑦、⑪) ・セキュリティリスクを組織的に管理するための方法について概説できる。(①、②、④、⑦、⑫) ※上記の①、②などの数字は「全学モジュールの目標」の番号である。		
	原則として下表に沿って進めるが、授業の進度や理解度の状況によって、若干の変更があり得る。		
	回	内容	
	1	第一部：知識編(第1回～第10回) ガイダンス～安全を確保していくための終わりなき取り組み、それが情報セキュリティだ!	
	2	情報社会の安全を脅かす脅威の数々～情報セキュリティを脅かす脅威のトレンドを紹介する	
	3	個人情報保護とプライバシー～個人情報保護法に規定する「個人情報」とプライバシーとの共通点と相違点を学ぶ	
	4	情報を守る技術～技術者が考える「情報を守る」の意味を代表的な技術から読んでいく	
	5	スマートフォンの便利さの裏に潜むモノ～個人情報の送信やウイルスなどの脅威を紹介する	
	6	ウイルスは死なず～ウイルスなどのマルウェアの機能や事例などを紹介する	
	7	ソーシャルエンジニアリング～様々な情報を盗む手段として、人間の脆弱性をつく脅威を紹介する	
	8	クラウドの便利さの裏に潜むモノ～クラウドコンピューティングの概要と様々なセキュリティ上の課題を紹介する	

授業内容	9	情報セキュリティのリスクマネジメント～組織的のもつ情報資産のセキュリティを維持するために、組織の弱み強みを正しく知ることが第一歩であることを学ぶ
	10	情報セキュリティのマネジメントサイクル～PDCAサイクルの構築・運用による組織の取り組みについて学ぶ
	11	第二部：活用編（第11回～第15回） ISMSのグループ学習1：リスクアセスメント1～とあるオフィスを例に、どのようなリスクがあるかを検討する
	12	ISMSのグループ学習2：リスクアセスメント2～情報資産を割り出しリスクを数値化することで、対策の優先順位を検討する
	13	ISMSのグループ学習3：管理策の検討1～リスクアセスメントに基づいて、リスク対応を選択し、管理策を具体的に検討する
	14	ISMSのグループ学習4：管理策の検討2、プレゼン内容の検討～第11回～第13回の成果を一貫性のある資料としてブラッシュアップし、学習成果プレゼンの準備を行う
	15	ISMSのグループ学習5：グループ学習の成果発表とディスカッションを行う
	16	定期試験
キーワード	情報セキュリティ、情報セキュリティリスク、リスク管理、個人情報保護	
教科書・教材・参考書	<p>教科書は指定しない。教材として、毎回講義資料（スライド）をeラーニングシステムを介して配布する。</p> <p>参考書： ・瀬戸洋一、高取敏夫、織茂昌之、廣田倫子、「情報セキュリティの実装保証とマネジメント」、日本工業出版、2009年3月 ・青柳武彦、「情報化時代のプライバシー研究」、NTT出版、2008年5月 ・McAfee Labs アンチマルウェアリサーチ 本庄信輔、「PCのウイルスを根こそぎ削除する方法」、技術評論社、2011年10月 ・NRIセキュアテクノロジーズ編、「クラウド時代の情報セキュリティ」、日経BP社、2010年8月 ・クリストファー・ハドナジー著、成田光彰訳、「ソーシャル・エンジニアリング」、日経BP社、2012年11月 ・吉田晋、「スマートフォンの業務利用におけるセキュリティ対策」、ソフトバンククリエイティブ、2012年4月</p>	
成績評価の方法・基準等	レポート課題(25%)、授業の取り組み状況(10%)、ISMSのグループ学習成果（プレゼン含む）(20%)、定期試験(45%)をもとに、総合的に評価を行う。	
受講要件（履修条件）	原則として全回出席を前提とする。ただし、やむを得ず正当な理由で欠席する場合は担当教員に連絡すること。授業時間外に予習・復習・レポート課題などの学習（週平均2時間以上）を確実にすること。	
本科目の位置づけ	前期開講の情報科学科目「情報基礎」の関連科目	
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）	授業時間の前後に必ずeラーニングシステムにアクセスして予習・復習を行うこと。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-07 情報社会とコンピューティング**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586013301	科目番号	05860133
授業科目名	●情報社会とコンピューティングⅠ(計算機の科学)		
編集担当教員	野崎 剛一		
授業担当教員名(科目責任者)	野崎 剛一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	野崎 剛一		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-25		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	nozaki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	情報メディア基盤センター2階		
担当教員TEL	095-819-2217		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	コンピュータは万能ではない。その特性を知って、うまく使いこなすことが大切である。情報社会を支えるコンピュータは多様な目的に使われているが、そこには共通な情報処理の原理があり、それに基づいて色々な応用目的に利用されている。 本講義では、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組みや動作原理、デジタルデータ処理の基本手法について理解を深める。		
授業方法(学習指導法)	コンピュータの基本的な原理や特性を正しく理解することにより、コンピュータはどのような時に役立つ、どのようなことが苦手かという見当がつくようになる。今後の専門科目の学習、専門課程の研究にも役立つ、応用できる基礎概念を身につけるよう講義する。理解を深めるためにインターネット接続されたWindowsパソコンを一人1台ずつ利用できる教室も活用して適宜、演習を行う。		
授業到達目標	情報社会を積極的に生きるために必要なコンピュータ技術の基礎的な動作原理を理解することを目標とする。		
授業内容	原則として下表に沿って進めるが、授業の進度や理解度の状況によって、若干の変更があり得る。		
	回	内容	
	1	ガイダンス, コンピュータの基本構成と動作原理	
	2	情報のデジタル化, 情報の数値表現, コンピュータ内での情報の表現, 情報の量	
	3	デジタル情報処理, 情報機器の種類と特性, 計算誤差の話など	
	4	オペレーティングシステム(OS), 役割, 機能, ファイル管理	
	5	プログラミング入門(1): 入力, 出力, 演算	
	6	プログラミング入門(2): 繰り返し, 条件判断	
	7	プログラミング入門(3): アルゴリズム	
	8	プログラミング演習, デバッグ	
	9	様々なアプリケーションソフト, オープンソースソフトウェア, フリーソフトの活用, 著作権	
	10	様々なデータ処理, デジタル信号処理, デジタル画像処理	
	11	コンピュータはデータをどのように記憶しているのか, 基本論理回路	
	コンピュータの構成部品, パソコンの内部を見てみよう		

	12	コンピュータの解体と組み立て
	13	情報セキュリティ, 暗号について, 情報システムの管理と保守
	14	コンピュータネットワークの仕組みとその利用, WWW, 電子メール, ファイル転送など
	15	コンピュータの歴史, 総まとめ
	16	定期試験
キーワード	コンピュータ, 電子計算機, ネットワーク, ハードウェア, ソフトウェア	
教科書・教材・参考書	e-ラーニングシステム上に電子ファイルで示す。	
成績評価の方法・基準等	課題60%, 小テスト・試験40%として総合評価を行う予定	
受講要件(履修条件)	学習意欲	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-07 情報社会とコンピューティング**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586013302	科目番号	05860133
授業科目名	●情報社会とコンピューティングⅠ(計算機の科学)		
編集担当教員	野崎 剛一		
授業担当教員名(科目責任者)	野崎 剛一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	野崎 剛一		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-25		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	nozaki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	情報メディア基盤センター2階		
担当教員TEL	095-819-2217		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	コンピュータは万能ではない。その特性を知って、うまく使いこなすことが大切である。情報社会を支えるコンピュータは多様な目的に使われているが、そこには共通な情報処理の原理があり、それに基づいて色々な応用目的に利用されている。 本講義では、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組みや動作原理、デジタルデータ処理の基本手法について理解を深める。		
授業方法(学習指導法)	コンピュータの基本的な原理や特性を正しく理解することにより、コンピュータはどのような時に役立ち、どのようなことが苦手かという見当がつくようになる。今後の専門科目の学習、専門課程の研究にも役立ち、応用できる基礎概念を身につけるよう講義する。理解を深めるためにインターネット接続されたWindowsパソコンを一人1台ずつ利用できる教室も活用して適宜、演習を行う。		
授業到達目標	情報社会を積極的に生きるために必要なコンピュータ技術の基礎的な動作原理を理解することを目標とする。		
授業内容	原則として下表に沿って進めるが、授業の進度や理解度の状況によって、若干の変更があり得る。		
	回	内容	
	1	ガイダンス, コンピュータの基本構成と動作原理	
	2	情報のデジタル化, 情報の数値表現, コンピュータ内での情報の表現, 情報の量	
	3	デジタル情報処理, 情報機器の種類と特性, 計算誤差の話など	
	4	オペレーティングシステム(OS), 役割, 機能, ファイル管理	
	5	プログラミング入門(1): 入力, 出力, 演算	
	6	プログラミング入門(2): 繰り返し, 条件判断	
	7	プログラミング入門(3): アルゴリズム	
	8	プログラミング演習, デバッグ	
	9	様々なアプリケーションソフト, オープンソースソフトウェア, フリーソフトの活用, 著作権	
	10	様々なデータ処理, デジタル信号処理, デジタル画像処理	
	11	コンピュータはデータをどのように記憶しているのか, 基本論理回路	
	コンピュータの構成部品, パソコンの内部を見てみよう		

	12	コンピュータの解体と組み立て
	13	情報セキュリティ, 暗号について, 情報システムの管理と保守
	14	コンピュータネットワークの仕組みとその利用, WWW, 電子メール, ファイル転送など
	15	コンピュータの歴史, 総まとめ
	16	定期試験
キーワード	コンピュータ, 電子計算機, ネットワーク, ハードウェア, ソフトウェア	
教科書・教材・参考書	e-ラーニングシステム上に電子ファイルで示す。	
成績評価の方法・基準等	課題60%, 小テスト・試験40%として総合評価を行う予定	
受講要件(履修条件)	学習意欲	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		

